

事前評価個表

整理番号	100
------	-----

地域（地区）名	<small>なんさつ</small> 南薩地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	鹿児島県	対象市町村	鹿児島市ほか6市
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	県，市，森林組合，森林所有者等

事業の概要・目的	<p>南薩森林計画区は，鹿児島県薩摩半島中南部に位置しており，本計画区の北部は，八重山を主峰に大小の山岳が東西に走り，中央部には金峰山，南部には開聞岳，東部の鹿児島湾に面して活発な火山活動を続ける桜島がある。また，これらの山岳を源として多くの河川が東シナ海，鹿児島湾のそそぎ，肥沃な平野が広がるなど，豊かな自然を形成している。</p> <p>本計画区の総面積190,998haのうち，森林面積は104,753ha(森林率55%)であり，その内訳は国有林9,917ha(9%)，民有林が94,836ha(91%)となっている。</p> <p>民有林は，スギ，ヒノキを主体とした人工林が47,311ha(人工林率50%)であり，うち34%が齢級以下の若齢林であり，適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが，近年の木材価格の低迷と林業従事者の高齢化や不況等から手入れが不十分な森林が見られるようになってきた。</p> <p>なお，齢級以上の人工林が66%を占めるなど，資源の面では充実してきているものの，伐期を迎える林分も多く存在することから，適切な森林整備を図る必要がある。</p> <p>本計画に基づき，森林の配置や齢級構成に応じ森林整備を行うことによって森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また，これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く，コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p> <p>なお，他産業との連携等に関しては，農耕地の多くが森林に近接していることから，農林業の振興，農林道の整備において関係部局との連携を図ってきている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：7,572ha 人工造林，樹下植栽等，下刈り，枝打ち，除伐，間伐，森林作業道開設</p> <p>総事業費：2,699,794千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 3.40
関係者の所見	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況，森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから，事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養，国土保全等の機能の確保はもとより，優良材の安定的生産にとって有効である。</p> <p>本計画では，森林の有する多面的機能の発揮に必要な適切な森林整備等が計画されている。また，効率性、有効性も認められることから，森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

便 益 集 計 表

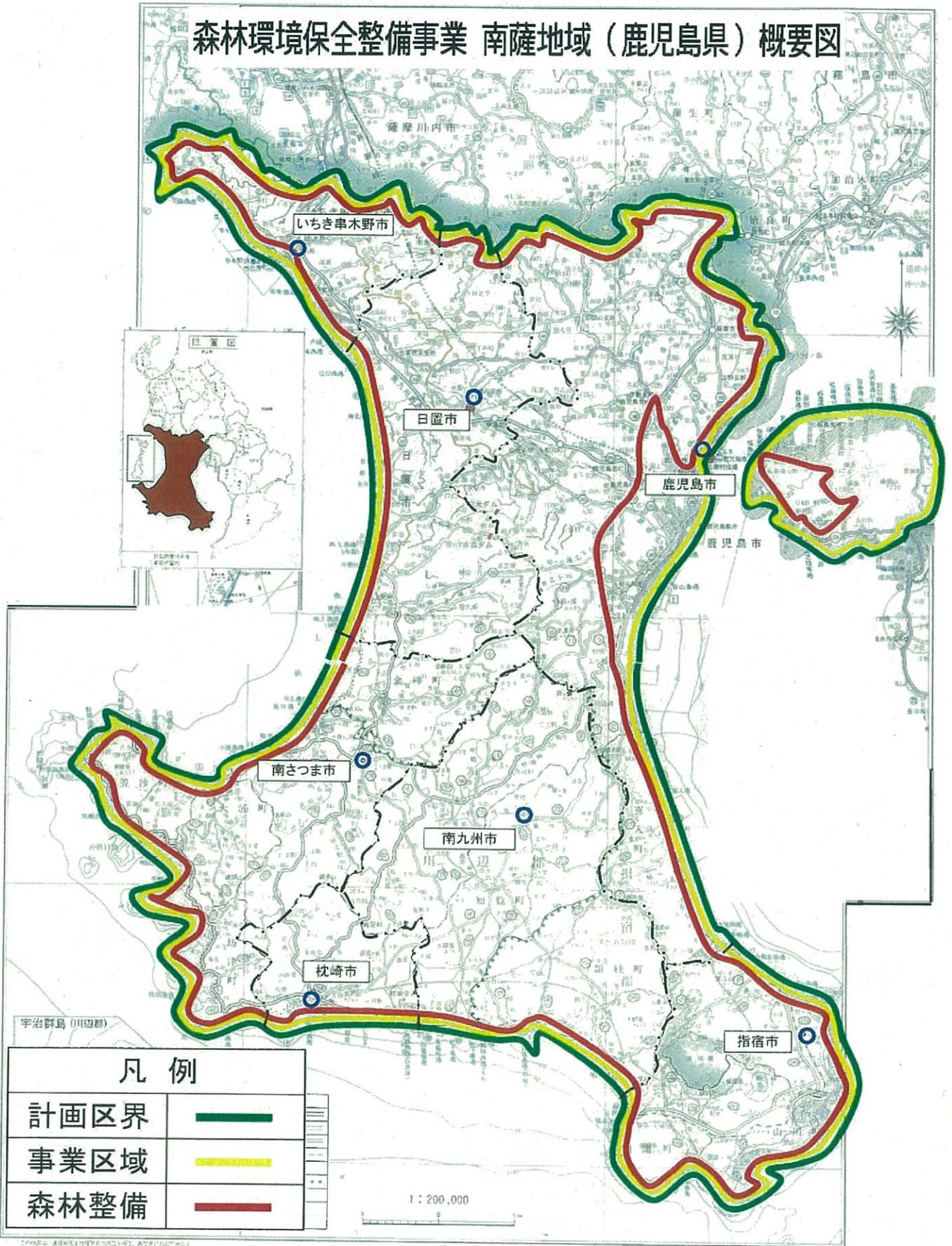
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 南薩

鹿児島県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	1,475,887	
	流域貯水便益	685,993	
	水質浄化便益	1,171,131	
山地保全便益	土砂流出防止便益	1,421,769	
	土砂崩壊防止便益	29,498	
環境保全便益	炭素固定便益	1,491,461	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	2,625,385	
総 便 益 (B)		8,901,124	
総 費 用 (C)		2,612,498	
費用便益比	$B \div C = \frac{8,901,124}{2,612,498} = 3.40$		

森林環境保全整備事業 南薩地域（鹿児島県）概要図



凡 例	
計画区界	
事業区域	
森林整備	

この図表は、鹿児島県庁のホームページに掲載されています。鹿児島県庁のホームページは、鹿児島県庁のホームページです。

鹿児島県庁 〒890-0001 鹿児島県鹿児島市川内 鹿児島県地図センター（地図製本課） 電話 099-227-1114（代表）

事前評価個表

整理番号	101
------	-----

地域（地区）名	<small>おおすみ</small> 大隅地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	鹿児島県	対象市町村	鹿屋市ほか6市町
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	県，市町，森林組合，森林所有者等

事業の概要・目的	<p>大隅地域森林計画区は、鹿児島県の東部に位置する大隅半島の最南端から北部にかけてに位置し、本計画区の西部には、大筈柄岳を主峰とする高隈山系を有し、中央部は肝属平野が広がっている。東南部には、国見岳を主峰とする国見山系が連なっている。また、これらの山岳を源として多くの河川が太平洋や鹿児島湾に注いでいる。</p> <p>本計画区の総面積210,415haのうち、森林面積は131,991ha（森林率63%）であり、その内訳は、国有林48,554ha（37%）、民有林が83,437ha（63%）となっている。</p> <p>民有林は、スギ、ヒノキを主体とした人工林が56,041ha（人工林率67%）であり、うち26%が年齢以下の若齢林であり、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、近年の木材価格の低迷と林業従事者の高齢化や不況等から手入れが不十分な森林が見られるようになってきた。</p> <p>なお、零級以上の人工林が74%を占めるなど、資源の面では充実してきているものの、伐期を迎える林分も多く存在することから、適切な森林整備を図る必要がある。</p> <p>本計画に基づき、森林の配置や年齢構成に応じ森林整備を行うことによって森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また、これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く、コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p> <p>なお、他産業との連携等に関しては、農耕地の多くが森林に近接していることから、農林業の振興、農林道の整備において関係部局との連携を図ってきている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：8,248ha 人工造林，樹下植栽等，下刈り，枝打ち，除伐，間伐</p> <p>総事業費：3,136,572千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 4.75
関係者の所見	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況，森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養，国土保全等の機能の確保はもとより，優良材の安定的生産にとって有効である。</p> <p>本計画では、森林の有する多面的機能の発揮に必要な適切な森林整備等が計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

便 益 集 計 表

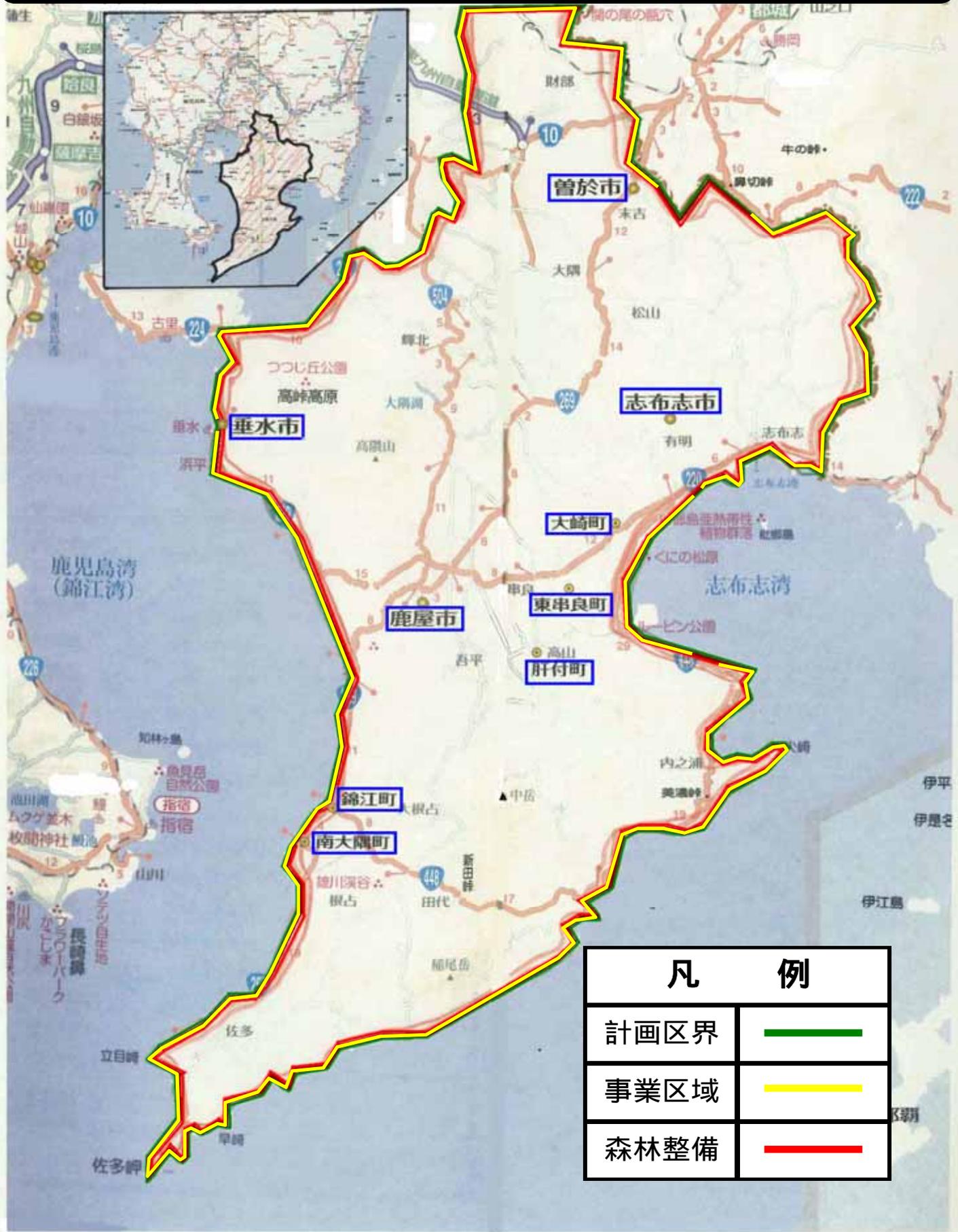
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 大隅

鹿児島県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	3,086,923	
	流域貯水便益	1,771,181	
	水質浄化便益	3,023,748	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,134,204	
	土砂崩壊防止便益	413,892	
環境保全便益	炭素固定便益	2,158,669	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	3,196,617	
総 便 益 (B)		16,785,234	
総 費 用 (C)		3,530,317	
費用便益比	$B \div C = \frac{16,785,234}{3,530,317} = 4.75$		

森林環境保全整備事業 大隅地域(鹿児島県) 概要図



事前評価において算定している便益の概要

便益項目		便益の概要
大区分	中区分	
水源かん養便益	洪水防止便益	森林の洪水を防止する機能が、事業実施により向上すること。
	流域貯水便益	森林の貯水機能が、事業実施により向上すること。
	水質浄化便益	森林の水質を浄化する機能が、事業実施により向上すること。
山地保全便益	土砂流出防止便益	森林の土砂流出を防止する機能が、事業実施により向上すること。
	土砂崩壊防止便益	森林の土砂崩壊を防止する機能が、事業実施により向上すること。
環境保全便益	炭素固定便益	森林の二酸化炭素を吸収固定する機能が、事業実施により向上すること。
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	木材の伐採・搬出経費が、路網整備の実施により縮減されること。
	木材利用増進便益	切り捨てとなっていた間伐材や小径木が、路網整備の実施により搬出・利用されること。
	木材生産確保・増進便益	森林の木材生産機能が、事業実施により向上すること。
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	造林等作業員の歩行時間、資材運搬経費等が事業実施により縮減されること、又は作業道を作設する経費が、路網整備の実施により縮減されること。

	森林管理等経費縮減便益	森林管理のための巡視や適切な森林整備・林業経営のための普及指導等を行う者の歩行時間が、路網整備の実施により縮減されること。
	森林整備促進便益	森林整備が、路網整備の実施により促進されること。